

ダナンは7年ほど前から支援しています。第三世代には国からの援助もなく、民間の方がボランティアでお世話してくれています。オムツやミルクが行き渡るようで、感謝いただいております。

委員長報告

■幹事エレクト 榎本 貞寿
4/26 (火) 18:30 から、パレスホテル大宮にて、次年度役員理事委員長会議が開催されます。該当者は、よろしくお願いたします。



地区役員派遣報告

■地区米山奨学増進委員会 委員 増永 裕樹
米山は4月から新年度です。次年度は米山選考委員会 副委員長を拝命しました。4月からの生徒数は39名。中国からが一番多く、韓国、ベトナム、台湾、ネパール、トルコから来ています。

昨年度は、悲しいことが2つありました。ひとつは、奨学生で亡くなられたかたがいました。もうひとつ、ご実家の家業がうまくいかなかった学生がいました。学費を払えない→除籍→ビザが切れる→バイトもできず→復学できず→帰国せざるを得ない。しかし、4月からの就職先が決まっていたのです。もし、周りが気づいて学費を一時的に工面できれば、就職できお金を返すこともできたわけです。コミュニケーションをとり、声をかけていけば、状況がわかり、知恵を絞ることもできなるとかできた事例でした。学生に話しかけて何に悩んでいるか、何を必要としているのか、汲み取ればと思うのです。皆様、今後も米山にご協力よろしくお願いたします。そして、学生とコミュニケーションをとってください。よろしくお願いたします。

■地区国際交流委員会 委員 島村 まり子

コロナ禍で韓国・台湾からのお客様が来られませんでした。再開したら、またがんばります。

■地区奉仕委員会 委員 松本 有祐

地区では、ベトナム・ダナンの孤児院への奉仕活動をしています。ダナンはベトナム戦争の際の激戦区にあり、米軍が枯葉剤を撒いたことで有名です。

今回の支援対象は、枯葉剤による影響で生まれた奇形児、障碍児の施設です。もう第三世代なのに、いまだに影響を受けており、国からの支援は打ち切れ、かなり困窮しています。施設は周囲のボランティアによって賄われていますが、コロナ禍でそれも難しかったようです。

緊急性があると判断され、3施設に45万円の寄付を想定、大宮西RCからは5万円を送りました。支援に際し、皆さんの同意をいただく経緯が十分でなかったと反省しています。そして、ご支援いただけたことに心から感謝いたします。



■地区資金推進委員会 委員 竹内 雅人

資金推進委員とは、他クラブに行って財団の話をし、寄付のお願いをすることがほとんどできない、他クラブに行けない状況で、活動がほぼできませんでした。次年度は出向しませんが、その後、また地区で活動していきたいと思っております。

■地区インターアクト委員会 委員

横溝 一樹
地区出向3年目となりますが、主だった事業が軒並み中止になるなどコロナ禍での活動の制限が一番大きかったように感じる1年となりました。

そんな状況ですが、地区では昨年からの新たな試みとして中学校に向けインターアクトクラブ設立を提唱する活動を行っており、地域各中学校からは良好な反応をいただいているとのことです。次年度からの青少年交換事業再開を受け、韓国3750地区からも交流事業再開に向けた連絡を受けているとのことです。こちらの方も準備を進めてまいります。来年度もインターアクト委員として出向いたしますので、引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

■地区公共イメージ向上委員会 委員 石丸 主憲
公共イメージ向上委員会の役割のメインは、クラブでも同じですが、ロータリーの活動や情報を内外に発信することです。今年度は松本ガバナーにちなんで、YouTubeちゃんねる「未来の扉 まっちゃん」を開設し、毎月発信しております。なかなかガバナーのお話をYouTubeで流しても見てもらえませんが、今年度は趣向を凝らして配信しております。私たち委員は数秒ですが、MCとして出演しております。ガバナーのお話も含め、端的に聞きやすくお話していただいています。とにかく興味をもってもらい見てもらうと意識して作っております。皆様、是非、見てください。

■地区職業奉仕委員会 委員 吉田 浩士

昨年10月、部門セミナーをWebで開催しました。内容は「コロナに負けるな。1社1名の採用を推進しよう」まずはできることから人材採用。自分が担当したのは「日本には老舗の会社が多い」という話でした。創業200年を超える会社が、世界では6000社、うち日本には3000社以上。創業100年は40,000社を超えるとのこと、世界の8割以上が日本にあるといえます。世界最古の企業という、大阪の建設会社の話をしました。その会社には言い伝えられている、16の教えがあるそうです。その中のひとつに、「単に利益を追求するだけでなく、嘘偽りのないしっかりと仕事をしよう」といった内容のものがああります。また、その会社が存続の危機にあった際、地域の会社が手助けしてくれたといえます。会社という枠組みを通して、評判・信頼といったものを蓄積し、地域に利益を還元するものではないか、そう思います。職業奉仕を勉強し、クラブに還元していくよう努めます。

